

認知機能障害のレベル (MCI～重症) と 生じやすい排尿動作障害の関係

篠原もえ子¹⁾, 小野賢二郎²⁾

1) 金沢大学 医薬保健研究域 医学系 脳神経内科 准教授

2) 金沢大学 医薬保健研究域 医学系 脳神経内科 教授

Point

- ▶ 排尿行動のプロセスと各プロセスで必要とされる能力について理解する
- ▶ 認知機能障害の種類, 認知症病型ごとに, 生じやすい排尿行動障害について理解する
- ▶ 認知機能障害レベル別に現れる排尿行動障害は異なる

はじめに

加齢とともに認知機能障害, 認知症に罹患する高齢者は増えます。認知機能障害を有する高齢者では, 排尿行動障害を伴うことがしばしばあり, 介護負担増加の要因となっています。

本章ではまず, 排尿行動のプロセスと各プロセ

スで必要とされる能力について述べます。次に認知機能障害の種類や認知症病型と各障害・疾病で生じやすい排尿行動障害について, また認知機能障害のレベル別に現れる排尿行動障害について概説します。



排尿行動のプロセス

排尿行動のプロセスには, おおまかに, 尿意の知覚, トイレへの移動, 便器の認識, 衣服の着脱, 便器の適切な使用 (排泄準備), 排尿, 後始末という多くのプロセスがあります。これらのプロセスを自立して行うために必要な能力を表1に示します。自立した排尿行動には, 適切に尿意を感知

する能力, トイレを排泄場所だと認識する能力, トイレまでの道順を思い出す能力, 自力で移動する能力, 便器を認識する能力, 衣服を着脱する能力, 便器の使用方法を想起する能力, および清拭や使用後の便器の後始末方法を想起し実行する能力が必要です。

表1 排尿行動プロセスと必要な能力

排尿行動プロセス	必要な能力
尿意の知覚	●適切な尿意の感知
トイレへの移動	●トイレを排泄場所だと認識する能力 ●トイレまでの道順を思い出す能力 ●自力で移動する能力
便器の認識	●便器を認識する能力
衣服の着脱	●衣服を着脱する能力
便器の適切な使用 (排泄準備)	●便器の使用方法を想起する能力
排尿	
後始末	●清拭および使用後の便器の後始末方法を想起し実行する能力

認知機能障害の種類と生じやすい排尿行動障害

認知症とは, 後天的な脳の障害によって認知機能が持続性に低下し日常生活や社会生活に支障をきたすようになった状態と定義されます。米国精神医学会が発行している精神障害の診断・統計マニュアル第5版 (Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, Fifth Edition ; DSM-5) によると, 認知症の中核症状として, 複雑性注意障害, 実行機能障害, 学習と記憶の障害, 言語障害, 知覚-運動障害, および社会的認知の障害といった認知機能障害が生じます¹⁾。また, 認知症では行動障害や精神症状として, 認知症の行動・心理症状 (behavioral and psychological symptoms of dementia ; BPSD) とよばれる妄想, 幻覚, 興

奮, うつ, 不安, 多幸, 無関心, 脱抑制, 易怒性, 異常行動が生じます²⁾。このように認知症では, 中核症状と BPSD といった多彩な症状が起こります (図1)³⁾。

表2に認知機能障害, BPSD と関連する排尿行動障害についてまとめます。認知症の中核症状のなかでも, 実行機能障害, 学習と記憶の障害, 言語障害, 知覚-運動障害は排尿行動障害と深い関連があります。

実行機能障害

実行機能とは, 目的をもった一連の行為を効率よく行うために必要な機能です。実行機能には,